

第1回コミュニティスクール検討会の概要

■概要

日時	令和6年1月25日(金) 午前10時00分～正午
場所	オンライン開催
出席者 (敬称略・50音順)	上沼 昭彦、河西 哲也、塩原 雅由、城村 義人、傳田 智子、早坂 淳、 伴 美佐子、堀田 茂樹

■主な意見

○学校運営参画とは

- ・「ただそこに地域の方が一緒にいる」状態を『参加』と呼ぶなら、『参画』は「より主体的な関わり、自分事感がより強い意味合い」と捉えている。
- ・スタートは「参加」。だんだんと階段を上がっていくように「参画」の方向に進んでいくのではないかな。
- ・地域側からも学校に対してこれまでの議論を建設的ないい形で共有していくことが、地域の責任なのではないか。言いたいことを言うではなく、生産的な議論や関係性が求められる。
- ・地域も学校も家庭もそれぞれ違う価値観をもっている。まずはビジョンを共有する場をつくり、議論をし、地域も変わるし、学校も変わる。その両者が変わることが子どもの教育を充実させていく。
- ・次年度、学校づくり、学校経営のビジョンを校長先生と協議する時に、学校の悩みに応じたビジョン作りの場に参加できるようになること、これが「参加」ではなく「参画」になると思う。

○学校運営参画の実情

- ・PTA として参画をしたいと願ったとき、学校側は、そこまで求めていないということは正直ある。温度感のギャップを感じる。
- ・学校のどの部分に参画いただき意見をいただくかは難しさがある。
- ・分からないから不安だということがたくさんある。それが負担になることが非常に多い。
- ・学校・地域、まだ多くの皆さんがそんな思いをおもちだと思う。
- ・学校と地域、双方に弱さとその必要を知るということがやっぱり大事なのかと感じている。

○参画をどう進めていくか

- ・負担感についてはポイントとして、無理はしないということが根本にあって、学校も地域も無理はしない、そうでないと持続可能には絶対ならない。地域連携で大切なことは「こどもと地域の必要感を重ねる」こと。地域の必要感の中に、子どもたちの総合的な学習の時間の課題を設定する支援を学校が行う。
- ・大切なのは校長先生の経営ビジョン。校長先生がこういう学校をつくりたいというように夢を語っていただけると関わる大人、学校の先生方、みんなでその目標に向かって進める。
- ・信州型から国型に変えたことによって、校長先生のマネジメント力が高まり、教職員や地域住民が納得する経営ビジョンを提示できるようになってきた。提示された経営ビジョンと出会った先生方が、自主的・自立的に教育活動を行うようになってきている。
- ・学校と地域を繋ぐいわゆるコーディネート機能が、とても大切。飯田市のコミュニティスクールの考え方は、「良い地域が良い学校をつくる」「良い学校が良い地域をつくる」といった好循環をつくっていくことがコミュニティスクールの大きな可能性ではないか。
- ・地域や産業界といった側が、子どもとの学びの中で起こってくる変化を目にする。さまざまなステークホルダーがリアルにどう感じてどう変化が起こってきたのかということをお伝えできるようにしたい。